

# 2593人、喜びの一步

## 平成26年度入学式



うららかな日差しに恵まれた4月1日、千葉工業大学の平成26年度入学式が幕張メッセ（千葉市美浜区）イベントホールで行われた。写真上・会場に向かう新入生たち。門出を祝うように桜が満開を迎え、新入生は喜びと緊張の第一歩を踏み出した。



幕張メッセのイベントホールを埋め尽くした新入生と父母たち

今年度の新入学生は工学部6学科1679人、情報科学部2学科329人、社会システム科学部3学科336人と、大学院生249人（修士課程3研究科233人、博士

後期課程3研究科16人）の計2593人。小宮一仁学長は式辞で、建学の経緯や教育理

念にふれ「グローバル化した現代社会において、科学技術者を輩出する本学の重要性はますます高まっている」と強調。学部生に課題発見力、論理的思考に基づく解決力、

と約束した。瀬戸熊修理事長は祝辞の冒頭、夢を持つ大切さを力説。本学の創立者・小原國芳先生が「二つでも多く夢を持ってほしい」との願いから「夢」の字を二画多く記したこ

と約束した。瀬戸熊修理事長は祝辞の冒頭、夢を持つ大切さを力説。本学の創立者・小原國芳先生が「二つでも多く夢を持ってほしい」との願いから「夢」の字を二画多く記したこ

と約束した。瀬戸熊修理事長は祝辞の冒頭、夢を持つ大切さを力説。本学の創立者・小原國芳先生が「二つでも多く夢を持ってほしい」との願いから「夢」の字を二画多く記したこ



来場30万人達成  
東京スカイツリータウンキャンパス

近未来技術を発信する東京スカイツリータウンキャンパス（東京都墨田区押上）東京スカイツリータウン・ソラマチ8階）が、開設3年目を控えた4月7日、来場者30万人を達成した。

政博博物館見学だったが、皓生君が本学ブースを見つけた。「入りたい！」と希望し入館したという。記念品贈呈式では宮川博光常務から、30万人目の記念に、宇宙飛行士が使用する宇宙ベン、本学オリジナルグッズなどが入ったバックが手渡された。写真左からみりちゃん、皓生君。



新入生代表・今井さん

いる未来ロボット技術研究センターをはじめ、充実した教育・研究環境を説明し「多くの友と切磋琢磨して、世界をリードする研究者や科学技術者を目指してください」と励ました。大学側の激励の言葉を

館内でアトラクションの説明を受けた皓生君、福島県原発対応ロボットを見て、自分もいつか人の役に立つロボットを作りたいと思ったという。スタッフから「ロボットを作るなら千葉工大はどう？」と聞かれると「千葉工大なら狙いたい」と答えが返ってきた。記念品の一つ「火星儀」を手に「部屋に飾って宇宙の勉強をします」と、翌日に新学期を控え、目を輝かせていた。

最後に、吹奏楽部が演奏する校歌を学生寮有志が力強く斉唱し、式を終えた。

歓迎の言葉として、在学生代表の酒井美咲さん（経営情報科学部4年）は、「先生方や先輩、友人との信頼関係は皆さんのかけがえのない絆になります」と語りかけ、「いろいろなことに挑戦し、周囲の人と支え合って自分の世界を広げてほしい」と結んだ。

受けて、今井雪穂さん（未来ロボット学）が新入生を代表し「世界を担う一人として自覚を持ち、目標に向かって勉学に励みます」と宣誓した。今井さんは原発事故や領土問題など日本がさまざまな問題に直面するなかで、社会情勢に対応し、専門技術で活躍できる人材を目指す決意を述べた。

# NEWS CIT

2014  
4.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

### ニュースガイド

- 2面 生物大量絶滅を実験で解明／習志野市と包括連携協定／長島さん優秀賞、矢須さんに助成金
- 3面 音響学会で院生3人受賞／保坂君が優秀講演賞／立原さんゴールドポスター賞／植草君、若手優秀研究報告賞
- 4面 平沼さんと西君、学生奨励賞／県内大学卒論発表会で3人受賞／パンドン工科大と交流協定
- 5面 上島君、優秀講演者賞／友納副所長が優秀論文賞／高校生ロケット打ち上げ／チバニー、本学公式キャラクターに
- 6面 新学生寮紹介
- 7面 ものづくり作品発表会／音響フォーラム／「観太くん」展示／「花いっぱい」に27人参加
- 8面 入学式・学長式辞／新入生インタビュー
- 9面 理事長祝辞／山崎直子さん講演
- 10面 平成25年度学位記授与式

## 高評価変わらず

本学格付け「AA－ 安定的」

格付投資情報センター（R&I）は3月13日、本学の長期債務の信用格付けを「AA－（マイナスイ）格付けの方向性は「安定的」と公表した。AA－は11年連続で「安定的」評価は4年目。東京スカイツリータウンキャンパスや、再開発を終えたキャンパスなどが受験生の関心を引き、良好と判断された。

入学志願者が昨年度に続き増加。学長が推進する留年・退学者を抑制する取り組みを本格化し、教育支援などの学生対応をよりきめ細かくする方針を打ち出した。依然として帰属収支差額比率は高く、内部保留資産比率も格付け相応の水準を維持するなど、収支・財務は良好と判断された。

# 地域発展・教育で連携

## 習志野市と本学 包括協定



協定を結び握手する瀬戸熊理事長(左)と宮本市長

本学は3月24日、習志野市との間で、まちづくりに関係するさまざまな分野で相互に協力し、地域

社会の発展と人材の育成を進めるための包括的な連携協定を締結した。大学の役割の一つとし

て「地域貢献」や「地域社会との共生」が挙げられている。習志野市に大半の施設がある本学はこれまで、災害時の地域住民の避難場所としてのキャンパス活用や帰宅困難者への食料提供など、さまざまな分野で習志野市と個別に協定を結んで事業を進めてきた。

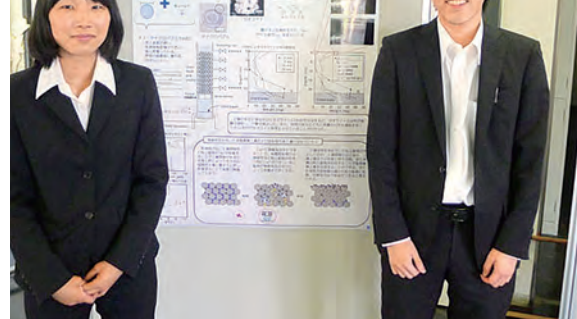
また、市の各種委員会に本学の教員が専門家として参加したり、商店街活性化のための研究を学生が商店主たちと一緒に進めるなど、地域の活性化にも貢献してきた。今回締結された包括協

定は、こうした個別事業の成果をベースとして、さらに本学と習志野市が良好な関係を築くことによって、一層幅広い分野で相互の人的・知的・物質的な資源の活用を進め、地域社会の発展に役立てていくことが目的。協定では協力事項として、地域経済・産業振興▽危機管理・安全対策▽都市基盤▽環境づくり▽教育▽生涯学習など11項目が掲げられている。

今後、本学は総務部総務課、習志野市は基本政策の担当課が所掌部署となって、連携協力事項を

実施するための協議を行い、必要に応じて事業別の覚書を締結する。

協定締結式は津田沼校舎1号館20階のサロンで行われ、瀬戸熊理事長と宮本泰介市長がそれぞれ署名した協定書を交換。この後、瀬戸熊理事長は「大学がもっている知的・人的なさまざまな財産を活用して、協力事項の実現に協力していきたい」、宮本市長は「大学とのこのような包括協定は市として初めて。今後、両者が永続的に発展していくことを祈念している」とあいさつした。



助成採択された矢須さん(右)

地圏環境工学(矢須)研究室の笹川科学助成の採択は4件目。



地球外天体が海洋に衝突した瞬間の想像図(NASA作成)

白亜紀末に起きた恐竜をはじめとする生物の大量絶滅については過去、さまざまな論争が繰り返されたが、1980年にノーベル物理学賞のルイス・アルバレス博士が提唱した、直径10キロもの巨大隕石の衝突による複合的な環境変動が原因という仮説が現在では定説と

なっている。実際に白亜紀末に形成された直径180キロもの衝突クレーター(チチュ



大野上席研究員

ルブ・クレーター)が、91年にメキシコ・ユカタン半島で発見された。さらに2010年には世界12カ国の地質学、古生物学、地球物理学、惑星科学などの研究者41人がチームを組み、天体衝突と生物大量絶滅に関する研究の数々を統一的に検討。チチュルブ衝突によって生物大量絶滅が起きたことをあらゆる証拠が示しているという結論をまとめ、米科学誌サイエンスに発表した。松井孝典・惑星探査研究センター所長も加わったこの研究によって、長年続けられてきた「恐竜絶滅論争」には決着がついた。しかし、なお未解決だったのが「天体衝突がどのような環境変動を引き起こし、それがいか

に生物大量絶滅をもたらしたのか」という、具体的なメカニズムの解明であり、なかでも海洋生物の食物連鎖の基底となる海洋プランクトンがなぜ絶滅したか―は、これまでの仮説では説明が不可能だった。

隕石衝突時の状況をレーザー実験で再現

そこで、大野上席研究員らの研究チームは「硫酸の酸性雨」に着目した。ユカタン半島には硫酸を含む岩石が豊富に存在したことが分かっており、それが隕石衝突のエネルギーで蒸発し、酸性雨の原料となる硫酸酸化物ガスが大気中に爆発的に放出されたと考えられるからだ。

研究チームは大阪大学レーザーエネルギー学研究所センターの高出力レーザーを使って、チチュルブ・クレーター付近の地

6550万年前の生物大量絶滅の原因は、巨大隕石の衝突で全地球的に降った酸性雨と海洋酸性化が原因だった。本学惑星探査研究センター(PERC)の大野宗祐上席研究員を代表者とする研究チームは、生物大量絶滅の中で最大の未解決問題だった海洋生物絶滅のメカニズムを、高出力レーザーを用いた世界初の実験で解明し、3月10日付の英科学誌ネイチャー・ジオサイエンス電子版に発表した。このニュースはNHKや主要全国紙、また海外メディアも一斉に報道し、世界的な反響を呼んだ。

## 生物大量絶滅

# 強酸性雨が原因で

## PERC 大野研究員チーム

## 実験で解明 世界的に反響

層と同じ硫酸塩岩に、秒速15〜20キロという宇宙速度に加速した金属粒子を衝突させる実験に世界で初めて成功。隕石衝突時の温度と圧力を再現した結果、これまで考えられていた二酸化硫黄ではなく、硫酸になりやすい三酸化硫黄が放出されることがわかった。

さらに理論計算によつて、隕石衝突によって放出された三酸化硫黄は数日で酸性雨となって全球的に降り注ぐこと、その結果、数年間にわたり海洋表層で炭酸カルシウ

ムが溶け出してしまいう海洋酸性化が起きることが明らかになった。

この研究結果によつて、代表的な海洋プランクトンである浮遊性有孔虫や石灰質ナノプランクトンの大半が絶滅したと、隕石衝突後、最初に酸に強いシダ植物が繁茂したことも、強い酸性雨と海洋酸性化によるものであることが統一的に説明できるという。

大野上席研究員らは「白亜紀末の生物大量絶滅は、隕石衝突の場所がたまたまユカタン半島だ

たから起きた。他の場所だったら違った結果になっていただろう」としている。

3月6日に東京スカイツリータウンキャンパスの惑星探査ゾーンで行われたマスコミへの事前レクチャーには、論文の共同執筆者12人のうち松井所長、門野敏彦・産業医大教授、杉田精司・東大

新領域創成科学研究科教授(PERC客員上席研究員)、重森啓介・阪大レーザーエネルギー学研究所センター准教授が出席した。

また、同研究室の矢須元規さん(生命環境科学専攻修士1年)は受賞当時「ナノ・マイクロバブルとモルデナイトの複合施用による汚染塩の浮遊分離」の研究を公益財団法人日本科学協会の平成26年度笹川科学研究助成(一般科学研究部門)に申請し、採択された。100万円を限度に助成される。

東日本大震災では東京電力福島第一原発事故で現在も放射能汚染土壌や貯蔵汚染水の除去の目的がたっていない。矢須さんは、微細気泡の有効性と、福島県で産出されるモルデナイトがセシウム吸着性能が高いことに注目、セシウムの浮遊分離計画を立て、汚染除去の方法として評価された。

## 微細気泡の応用技術研究で

# 長島さん優秀賞受賞 矢須さんには助成金

地球の「土壌圏」を環境システム(物質循環)からとらえる矢須勇樹・生命環境科学科准教授の研究室内で、受賞者と研究助成採択が重なった。

環境科学科4年Ⅱ受賞当時(3月5、6日、長野県の日本大学軽井沢研修所で開催)で「オゾンマイクロバブル供給による

ヨードかん水からのヨウ素浮遊分離」を口頭・ポスターの両方で発表し、優秀賞を受賞した。

ヨウ素が多量に含まれる海水(かん水)に、オゾンの微細気泡を吹き込

み、気泡に付着させて浮き上がらせ、ヨウ素を効率よく分離する技術を説明した。

長島さんは「初めての学会発表で、貴重な経験ができました。刺激を受けると同時に、受賞は大きな自信になりました。矢須先生たちのおかげです」と喜びを語った。長島さんは4月にヨウ素、金属化合物などを世界に供給している有名化学工業会社に入社した。

## 音響学会で成果

# 院生3人 石井さん栗屋奨励賞 土屋さん優秀発表賞 森さんは2賞とも

「音」に関する全国の研究者・技術者が発表を持ち寄る日本音響学会の2013年秋季研究発表会(昨年9月25～27日、愛知県豊橋市の豊橋技術科学大学で開催)で、森淳一さん(工学専攻博士後期3年)が栗屋奨励賞の両賞▽石井要次さん(同)受賞当時・飯田一博研究室)が栗屋奨励賞の両賞▽土屋宏樹さん(電気電子情報工学専攻修士2年)が受賞当時・飯田研究室)が学生優秀発表賞を、それぞれ受賞。3月11日、東京都千代田区の日本大学理工学部(駿河台キャンパス)で行われた2014年春季研究発表会の会場で表彰された。栗屋奨励賞は栗屋音響学会元会長の遺族の寄付で創設された賞で新進の研究・技術者に与えられる。受賞者5人のうち2人が本学から選ばれた。学生優秀発表賞は今回、優秀な発表をした学生20人に贈られた。

## 森淳一さん

「屋外拡声システム」の音響設計のための可聴型シミュレーションシステムの試み」

災害の発生や避難誘導を伝えるための屋外拡声システム(防災行政無線)は重要な情報伝達手段だが、複数のスピーカーからの音や近隣の建物からの反射音などが重なり(マルチパスエコー)、アナウンスが聞き取りにくい場合がある。これを改善するための音響設計では、スピーカーからの音響伝搬をコンピュータ上で予測し、その音を音

の3次元情報も含めて実験室に再現する手法を用いることが望ましい。森さんは、音響伝搬計算法の中でも最も単純な幾何音響シミュレーション(虚像法)と、比較的簡便な6チャンネル収音・再生手法を併用した新たな可聴型シミュレーションシステムを考案し、システムの有効性を検討した。検討では、現場録音したアナウンスと、考案したシステムで合成したアナウンスの比較実験を行い、現場録音は長期間にわたった。森さんは「名誉ある賞を2つもいただき恐縮しています。先生や先輩、後輩たちにはお世話になりました。家族も研究しやすい環境を、と協力し



左から佐藤教授、土屋さん、森さん、石井さん、飯田教授

## 放電加工でレンズアレイ型を創成

# 保坂君が優秀講演賞

千葉県加工技術研究会主催の第16回大学等委員による研究事例発表会が3月6日、本学津田沼キャンパス6号館で開催され、保坂隆博君(機械サイエンス学科4年)が優秀講演賞を受賞した。

瀧野研究室では、表面

を創成するための先進加工技術の確立を目指して研究に取り組んでいる。



レンズアレイ型とは、多数のレンズ形状を等間隔に配列したプレス成形用の型。プレス成形されたレン

ズアレイは照度均一化などの機能を有することから、次世代デジタル機器の光学系に欠かせない。型は超硬合金や炭化ケイ素など高硬度材料で作成し、現状ではレンズ形状を1個ごとに超精密研削・研磨して仕上げるので時間がかかる。保坂君らは、放電加工を用いれば、導電性材料なら硬度に関係なく加工できることから、レンズ面創成の高効率化を検討。新しい放電加工電極を提案し、その基礎特性を明らかにした。

新電極でレンズアレイ型を試作し、その形状から種々のデータを得た。これまで放電加工によるレンズ面創成の例がなく、レンズに要求されるマイクロメートルオーダー以下の加工精度に影響する因子を究明するのが手探り状態だったという。学生発表15件中、保坂君は2位に選ばれた。保坂君は「瀧野教授のご指導のおかげ。受賞は私たちの研究に関心を持たれていることでもあると思います」と感想を寄せた。

てくれました。選奨は私が代表になりましたが、皆さんと共にもらった賞と思っています」と語った。

## 石井 要次さん

「受聴者の耳介形状に基づいた頭部伝達関数の個人化精度の検証」

鼓膜に届く音は、頭や耳、肩までの形などの影響で変化する。この変化を表したのが頭部伝達関数(HRTF)だ。ヘッドホンなどにより、その人のHRTFを鼓膜上で

再現することで、任意の方向に音像を制御できることが知られている。他人のHRTFを用いると誤った方向に音を知覚することがある。全受聴者のHRTF測定は、時間と無響室などの設備の点で現実的ではない。

石井さんは、測定や試験なしに、耳介形状から特徴的な周波数を推定し、受聴者に適合するHRTFをデータベースから選出し、個人化する手法を研究。防音室で測定した被験者のHRTF

と、ベストマッチしたHRTFの特徴的周波数の比較を音像定位実験で繰り返した。その結果、差異はほぼ許せる程度で、この手法が有効であることを示した。

これにより、各受聴者に適合するHRTFを簡単に提供でき、音響機器や設備で、音の3次元方向制御の普及が期待されるという。

石井さんは「身に余る賞で、これからも誠実な姿勢で研究に励んでいきたい」と語った。

## 立原さんゴールドポスター賞

2013年材料技術研究協会討論会(昨年12月6、7日、千葉県野田市の東京理科大学野田キャンパスで開催)で立原匠さん(生命環境科学専攻修士1年)が受賞当時・橋本和明・柴田裕史研究室「写真」が「チタニア粒子の表面特性が繊維芽細胞に与える影響」をゴールドポスター賞を受賞した。

チタニア(二酸化チタン)は可視光を吸収せず(白く)、水に溶けない微粒子となるため、塗料や顔料、日焼け止めなどに広く使われてきた。一

方で短波長は吸収し、紫外光で強い酸化力を発揮するので、環境汚染物質を光分解する光触媒材料としても知られる。

しかし、水に溶けない微粒子・強い酸化力の性質は、人の体に悪影響を及ぼすことがあり、近年、発がん性も注目されている。

日焼け止め(サンスクリーン剤)ではシリカなどで被覆した酸化チタンが使われるが、皮膚への詳しい影響は調べられていなかった。

立原さんは、チタニア微粒子が皮膚細胞に及ぼす毒性の測定手法を確



立しようとして研究に着手。サンスクリーン剤使用中の皮膚を実験室で模擬的に再現し、こ

## 植草君、若手優秀研究報告賞

日本建築学会関東支部の2013年度第84回研究発表会(2月20、21日、東京・神田駿河台の日大理工学部で開催)で、植草俊介君(建築都市環境学科4年)が受賞当時・石原沙織研究室・写真」が発表した「ウレタン塗膜防水層の施工可能限界粘度と膜厚」その1

施工と技能水準が施工可能限界粘度に及ぼす影響」が、選考の結果、材料施工部門の若手優秀研究報告賞に決まり、3月24日表彰された。

ウレタン塗膜防水は、液状のものをコンクリートなどの下地に塗り、それが硬化して防水層になる。元が液状であるため、施工工具や材料の硬さ、施工技術、下地の状態などが、出来た防水層の品質に大きく影響する。



植草君は確かな品質にするため、材料の粘度に着目。施工と施工の技能水準を変数として、これ以上軟らかすぎ、または硬すぎでは施工できない限界粘度を明らかにした。更に、限界粘度で施工した際の硬化後の品質を明らかにした。

植草君は今春就職。学業最後の受賞について「大変光栄です。研究室の仲間、そして共に研究を行った高橋裕希君(同学科4年)と一緒に勝ち取った賞だと思っています」とコメントした。

## 土屋 宏樹さん

「耳介の窪みの寸法と頭部伝達関数の第2ピークの関係」直方体の窪みで構成した耳介モデルを用いた検討」

頭部伝達関数(HRTF)で臨場感ある立体音響再生へ――土屋さんは推定HRTFの精度を上げるため、特に耳介の窪みの寸法と特徴的周波数の関係について調べた。

ヒトの耳介形状は三角形(か)、耳甲介舟、耳甲介腔(くう)などが組み合わさった複雑な形状だ。土屋さんは、直方体の窪みで耳介モデルを構成し、特徴的周波数を実耳と比較分析した。この結果、モデルでも実耳でも、窪みの長軸方向の寸法が特徴的周波数に大きく影響を与えることが推定されさらに研究している。

受賞に土屋さんは「飯田教授、数値計算の協力と助言をいただいた独立行政法人情報通信研究機構の研究員の方々、全ての方に心から感謝します」と話した。

がエントリ。立原さんが特に優秀なポスターと認められた。立原さんは「学会参加は初めてで緊張しましたが、賞をいただき、とてもうれしい。これからも頑張ります」と語った。

## 情報処理学会でも成果

### 平沼さん学生奨励賞

#### WSNの省電力化を研究



子レンジなどのノイズを受けがち。消費電力も増える恐れがある。

他に429メガヘルツ帯や920メガヘルツ帯があるが、これらも消費電力や通信速度に問題があるという。

平沼さんは複数の周波数を、電波環境や送信情報に応じて動的に切り替えて使うことで、速度や品質を向上させ、省電力化する研究を進めている。

情報処理学会第76回全国大会（3月11～13日、東京都足立区の東京電機大東京千住キャンパス）の学生セッションで、平沼成彬さん（電気電子情報工学専攻修士1年）が「複ルツ」は無線LANや電

### 卒業を受賞で飾る

平成25年度  
千葉県内大学  
による卒業論文  
発表会（2月28日、幕張  
ワールドビジ  
ネスガーデン  
・マリブウエ  
ストで開催）



井上君

「マは以下のとおり（学  
年は受賞当時）。

した表記法）を使えば、  
コードマッチングによる  
高速な大語  
彙認識が可  
能だが、従  
来は限られ  
た単語にし  
か記号の要  
素を取得し  
てこなかっ  
た。井上君  
は大語彙検  
査への第一歩として、ハ  
ンブルク記号の出現頻度  
に注目して研究した。

#### 井上佑寿君

（電気電子情報工学科  
4年・小林幸雄研究室）

開始したばかりの研究  
で、ツールの導入から方  
式の検討まで手探り状態  
だったというが、発表で  
座長の菅沼拓夫・東北大  
大学院情報科学研究科教  
授に認められての受賞と  
なった。

「ハンブルク記号（手話  
動作をかたどって記号に  
関する研究」

#### 大庭聖也君

（プロジェクトマネジ  
メント学科4年・竹本篤  
郎研究室）

「大規模システム開発に  
はウォータフォールモデ  
ル（古典的な開発手順モ  
デル）が採用されてきた  
が、生産性が低く失敗リ  
スクが高い。近年では、  
より柔軟なアジャイル型  
モデルの採用が増してい  
るが、大規模なシステム  
開発プロジェクトを細分  
化して管理する方法論は  
まだ確立されていない。



大庭君

大庭君は「多くの興味深  
い発表の中から、私たち  
の研究が選ばれて、素直  
にうれしいと感じまし  
た。学生生活最後の研究  
活動を受賞で終えること  
ができ、感動していま  
す」と語った。

### 25年度県内大学卒論発表会

## 本学3人が優秀賞

誰が行うかを決めるため  
タスクアサイン（役割分  
担を行うこと）がある。  
現在の役割分担は、プ  
ロジェクト・マネジャー  
が個々のスキルや経験に  
合わせタスクを割り振る  
のが主流だが、このやり  
方ではメンバーのスキル  
に見合わない「割り振り  
ミス」が発生する可能性  
がある。

#### 川崎元君

（プロジェクトマネジ  
メント学科4年・竹本篤  
郎研究室）

川崎君は、タレント・  
マネジメントの人材管理  
手法を利用  
し、人材の  
質を考慮し  
た効果的な  
人材調達モ  
デルの提案  
をした。



川崎君

### 手話支援で西君も

#### 学習システム開発を研究

未来ロボティクス学科  
4年

聴覚にハンディを持つ  
人と健聴者の会話で、  
手話通訳者が不足してい  
る現状に着目し、手話学  
習支援システムの開発を  
試みた。

センサー内蔵）を使った。

手話通訳の掌、指先  
関節など片手につき20も  
の部位の動きを記録し、  
手指動作の3Dモデルを  
構築。この3Dモデル  
と、実際に撮影している  
手とを比較しながら、粒

子群最適化（PSO）で  
手指の動きを追跡してい  
った。今回は、五十音を  
片手で表現する指文字76  
文字（濁音や長音を含む）  
の動きを辞書化した。

正面で、C  
Gの教える  
手モデルに  
沿って手話  
動作をする  
と、システ  
ムが辞書と  
照合し、差  
異が最も少  
ない手話単  
語を認識単

語として出力する。  
静止した指文字では認  
識率が高いが、動きのあ  
る指文字では「が」を  
「か」と誤認するケース  
などがまだあり、今後も  
研究を続けたいとしてい  
る。

西君は「多くの興味深  
い発表の中から、私たち  
の研究が選ばれて、素直  
にうれしいと感じまし  
た。学生生活最後の研究  
活動を受賞で終えること  
ができ、感動していま  
す」と語った。

西君は「多くの興味深  
い発表の中から、私たち  
の研究が選ばれて、素直  
にうれしいと感じまし  
た。学生生活最後の研究  
活動を受賞で終えること  
ができ、感動していま  
す」と語った。

西君は「多くの興味深  
い発表の中から、私たち  
の研究が選ばれて、素直  
にうれしいと感じまし  
た。学生生活最後の研究  
活動を受賞で終えること  
ができ、感動していま  
す」と語った。



会場前で西君（左）と大川教授

「2014年3月11日（火）13日（水）  
会場：東京電機大学 東京千住キャンパス  
一般社団法人情報処理学会 第76回全国大会  
マ、世界ナンバー1へのチャレンジ」

調印式でアクマロカ学長（左）と小宮学長



「2014年3月11日（火）13日（水）  
会場：東京電機大学 東京千住キャンパス  
一般社団法人情報処理学会 第76回全国大会  
マ、世界ナンバー1へのチャレンジ」

### バンドン工科大とも

#### 海外交流協定、16大学目

インドネシアのバンド  
ン工科大学のアクマロカ  
学長、スターン・カデリ  
・ビジネス・マネジメン  
ト学部長、エドワン・カ  
印した。

バンドン工科大は学生  
2万人を擁する、インド  
ネシアで有数の国立工科  
系大学で、スカルノ初代  
インドネシア大統領が同  
大学の卒業生であること  
で知られている。  
アクマロカ学長一行  
は、津田沼キャンパスを  
視察後、東京スカイツリ

「タウンキャンパスを訪  
問し、エリア1、2とそ  
れぞれのアトラクション  
を見学した。一行は太陽  
系ランドツアーに興味  
を示し、AR技術（現実  
に仮想世界を重ね合わせ  
る「拡張現実」技術）を  
使用したステップタッ  
プでは、アクマロカ学長自  
ら床面の惑星  
を踏んで、そ  
の動きを楽し  
んでいた」写  
真下。

「タウンキャンパスを訪  
問し、エリア1、2とそ  
れぞれのアトラクション  
を見学した。一行は太陽  
系ランドツアーに興味  
を示し、AR技術（現実  
に仮想世界を重ね合わせ  
る「拡張現実」技術）を  
使用したステップタッ  
プでは、アクマロカ学長自  
ら床面の惑星  
を踏んで、そ  
の動きを楽し  
んでいた」写  
真下。

「タウンキャンパスを訪  
問し、エリア1、2とそ  
れぞれのアトラクション  
を見学した。一行は太陽  
系ランドツアーに興味  
を示し、AR技術（現実  
に仮想世界を重ね合わせ  
る「拡張現実」技術）を  
使用したステップタッ  
プでは、アクマロカ学長自  
ら床面の惑星  
を踏んで、そ  
の動きを楽し  
んでいた」写  
真下。

「タウンキャンパスを訪  
問し、エリア1、2とそ  
れぞれのアトラクション  
を見学した。一行は太陽  
系ランドツアーに興味  
を示し、AR技術（現実  
に仮想世界を重ね合わせ  
る「拡張現実」技術）を  
使用したステップタッ  
プでは、アクマロカ学長自  
ら床面の惑星  
を踏んで、そ  
の動きを楽し  
んでいた」写  
真下。

# 上島君、優秀講演者賞

## 谷津川・高瀬川の環境評価研究



受賞した上島君

着珪藻の出現状況から評価しようとした。

1年間を通じて季節ごとに4回、谷津川は船溜り・上流・下流の3地点、高瀬川は上流・下流の2地点で採

水。付着珪藻を貝などの表面から採取し有機汚濁指数(DAIPo)と河川総合評価(RPid)を算出した。

その結果、春の谷津川・高瀬川は「やや清水」。

夏は「やや汚濁」、秋の谷津川は「やや汚濁」、高瀬川は「やや清水」と評価された。

夏秋の谷津川の汚濁は、水温の上昇で好汚濁性種が増え、生活排水や道路の油の流入、ゴミの投棄が加わり汚濁が進行したと考えられるとい

土木学会関東支部の第41回技術発表会(3月13、14日、新潟県長岡市の長岡技術科学大などで開催)河川環境部門で上島智史君(生命環境科学科4年)受賞当時・村上和仁研究室)が「付着

## 友納furo.が優秀論文賞

### ロボット用3D直線地図を生成



奥行きのある広い環境でステレオ画像から3D直線を復元するのは、誤差や情報欠落のため難しかったとい

ロボット関係の国内会議である第19回ロボティクスシンポジウム(3月13、14日、神戸市の有馬グランドホテルで開催)で、未来ロボット技術研究センター(furo)の友納正裕副所長(写真)が「ステレオカメラを用いたエッジ点からの3D直線地図の生成」を発表し、優秀論文賞に選ばれた。

友納副所長によると、

発表したのは、ステレオカメラを使ってロボット用の地図を作る技術。これまで行ってきた自律ロ

ボット用の3D地図を作る研究をベースに、その地図から直線構造を抽出する方法を開発した。

う。研究では、先に生成した3D点群を利用して3D直線をうまく復元。さらに3D直線が存在範囲を簡便に表現する方法を提案した。これにより、従来難しかった種類の3D直線を復元できるようになった。

友納副所長は「直線がもつ幾何学的性質を利用すれば、地図の生成効率や精度が向上する可能性を、プレゼンで訴えたのがよかったかもしれない」と受賞を喜び、「今後は直線の性質を使って大規模な地図を精度よく生成する研究を進め、実際のロボットに適用できるようにしたい」と語った。

## 高校生ロケット打ち上げ！

### ロケットガール&ボーイ養成講座が無事終了



打ち上げ台を準備



腕に抱えて最後の点検

伊豆大島で高校生がロケットの打ち上げを目指してきた「2013年首都圏版ロケットガール&ボーイ養成講座」(1月11日〜3月23日)本学主催)は3月21〜23日、伊豆大島三原山実験フィールド(本学管理地)でロ

ケットを打ち上げ無事終了した。参加高校生は関東の14人(男子8人、女子6人)。液体触媒+固体燃料のハイブリッドロケット(全長約2.5m、重さ約10kg、飛行高度約3500m)を「チームで、自分

たちの力で」設計から打ち上げまでこなそうと、初回ミーティングから男女チームに分かれ励んできた。

本学工作センターなどを利用し、惑星探査研究センター(PERC)の

21日には地元小学生を集め、小型モデルロケット教室も開いた。親子28人が参加し、翌日に自作ロケットを打ち上げると、次々に歓声が上がり、子どもたちに夢を与えるイベントとなった。

だったが、打ち上げ当日は好天続き。男女チームの苦心のロケットが、ともに真っ青な空に打ち上げられ、見事に上空約300mに達した瞬間には、高校生たちも学生T.Aも感動の表情だった。

と珪藻図鑑を何度も見比べ、眼が疲れたと苦勞を語った。発表態度と研究

の努力、明確な結論などで受賞が決まった。上島君は今春、社会人

に。受賞に「とてもうれしい。実験で学んだ仲間との協力や、粘り強く取

り組む大切さを生かして仕事していきたい」とコメントを残した。

## 本学公式キャラクターに昇任！



チバニー1歳

昨春デビューし、千葉工業大学の「受験生応援大使」として親しまれてきた「チバニー」が4月1日、1歳の誕生日を迎え、本学の公式キャラクターとなった。オープンキャンパスや入学案内でペンギンで知られるキャラクターデザイナーの第一人者・坂崎千春さんの手によるもの。

※チバニーは商標登録されており、使用規定があります。使用を希望するときは必ず入試広報課にお問い合わせください。

●LINE@始めました

公式キャラクター昇任を記念して、スマートフォン向けコミュニケーションアプリ「LINE」にアカウントを開設した。本学の最新情報、オープンキャンパス情報、



LINEのアイコンとQRコード

お得意情報などを伝えていく予定(LINE利用者は「友だち追加」から「ID検索」で「@cit.01」を検索)。坂崎千春さん 千葉県市川市出身の絵本作家・イラストレーター。ダイハツCM「カクカクシカ」や「千葉県のマスコット「チーバくん」なども坂崎さんの作品。本学の坂崎春樹名誉教授(元・工業経営学科)のご息女。

## 平成26年度 夏期英語研修生を募集



### ガム大学で英語研修

- ◆期 日 2014年8月3日(日)〜8月30日(土)
- ◆募集人数 学生36人(申込者多数の場合は選考)
- ◆行程内容 ガム大学で英語研修・ガム文化授業  
※本学の英語科目の単位に認定(予定)  
ガム大学生との交流
- ◆旅行代金 約300,000円(為替及び参加人数の変動により多少の増減あり)
- ◆申込期間 2014年5月7日(水)〜5月20日(火) 17:00まで

- ◆説明会  
＜新習志野校舎＞  
4月28日(月)12:20〜11号館1階  
5月9日(金)18:20〜11号館1階  
＜津田沼校舎＞  
4月28日(月)18:20〜6号館642講義室  
5月9日(金)12:20〜6号館612講義室

＜問い合わせ先＞国際交流課(津田沼校舎1号館1階)TEL:047-478-0245  
＜申込書提出先＞津田沼学生課・新習志野学生課

今回の参加者募集については、国際情勢、その他の事情により、日程や募集内容の変更、または中止となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# 東京湾を望んで、新生活スタート

## 桑蓬寮、椿寮 オープン

昨年から建築が進められてきた新学生寮「桑蓬寮(男子寮)」「椿寮(女子寮)」が完成し、3月18日、瀬戸熊修理事長、小宮一仁学長ら関係者約100人が出席して竣工式が挙行された。式後に見学会が行われ、参列者が寮内の居室など、真新しい館内を見て回った。新学生寮は26年度から原則1、2年生の寮として供用を開始。3月27日、旧・千種寮の寮生が引っ越し、同29日には新入生も入寮、いよいよ新生活がスタートした。

### 防災・セキュリティ万全 プライバシーと共用を両立

本学は創立当時、全寮制を謳い、以後、学生寮が教育を支えてきた。千種寮が昨年、50年を経た。桑蓬寮、椿寮のオープン。直し、新習志野へ。名前はこれまでの寮名の桑蓬、椿、青嵐、北斗のうち、

桑蓬の志 中国で男子が産まれたとき、桑の木の下に産まれた。矢で天地と四方の六方向を射て将来の雄飛を願った。このことから、男子が天下に雄飛しようとする志を「桑蓬の志」と言うようになった。その名の由来から男子寮を「桑蓬寮」と命名した。また女性を「椿寮」と命名した。新習志野は、新習志野敷地内・6号館の南東側に

グラウンドの一面に建てられている。南側立面は海へ向け美しいスカイラインを形成。新習志野キャンパスで学ぶ学生のために津波などの防災対策としてスロープとデッキを設けた。門扉には学生証を利用したセキュリティを、男子寮、女子寮の各入り口には顔認証システムを採用し、安全を確保している。

2階食堂はワイドビューが確保された。明るく開放感のある空間が、寮生の食生活を彩り、交流の場となる。居室はすべて個室で、必要家具が備え付けられている。一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、寮室のあるフロアにはダイニングやスタディスペース、談話スペースなどパブリックスペースを設け、共同生活で互いに切磋琢磨し「個」を高めている。

女子寮に細かな配慮

■寮室(女子)  
デスク、クロゼット物入れや洗面化粧台を完備。調湿と消臭効果のあるラビパネルをクロゼットなどに使用。無線LANも完備されている

■スタディスペース(女子)  
個人やグループでの使用など使い方の自由なスタディスペース。無線LANなどの設備も整っている

■食堂  
壁一面に広がるガラスとトップライトを配したダイナミックな食堂。窓ガラスから陽が差し込み、広々とした空間は学生の憩いの場所にも

■多目的スペース  
食堂に隣接した多目的スペースでは様々な用途に利用可能な設備を完備

■共同ダイニングキッチン  
簡単な料理を作ったり、パーティーや食事会などの目的でも使用が可能

■浴室  
男子用、女子用ともシャワー室、更衣室が併設されている

■ラウンジ(女子)  
食堂から続くラウンジ。顔認証システムによりセキュリティ管理されたラウンジは南北に大きな開口部を配し明るい空間を形づけている

女子寮に細かな配慮  
共用スペースに、簡単な調理や、パーティーを楽しむようにキッチンスペースを設置。また、パブリックバスとともにシャワーブースも完備されている。身支度に配慮し、居室に洗面台を設置するなど、女性が住まいに望むポイントを抑え、機能が充実している。

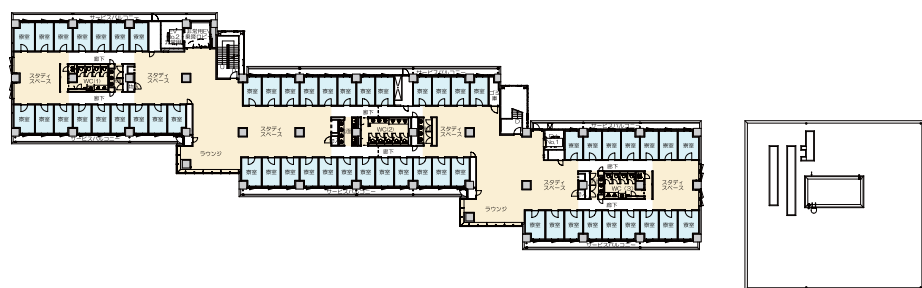
右上方、緑色の屋上の建物が新学生寮。左は新習志野キャンパス



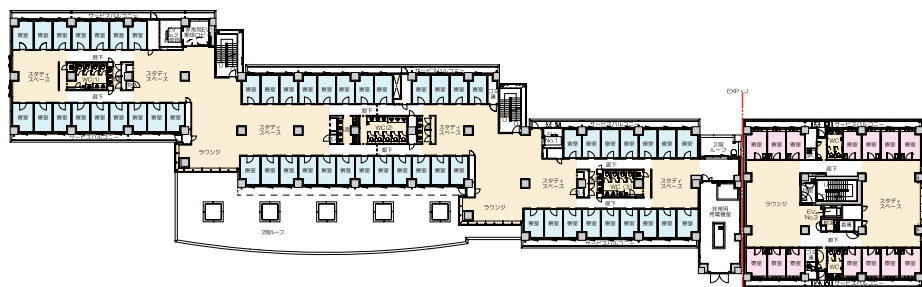
海側から見た新学生寮。左は桑蓬寮、右端の1棟が椿寮



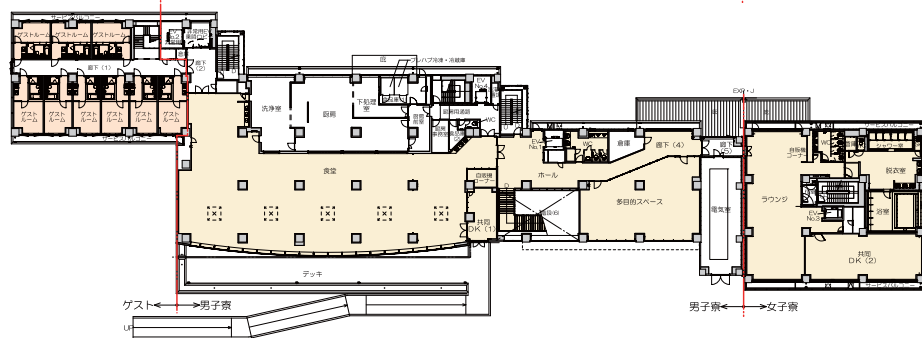
7・8階



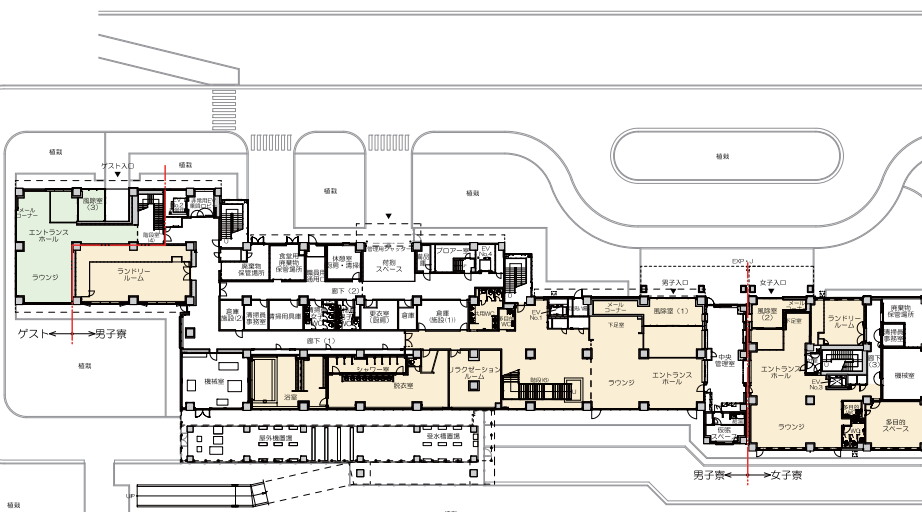
3・6階



2階



1階







約4倍という大変な難関を突破し、晴れて千葉工業大学の一員になられ、今日の入学式を迎えられた感慨はひとしおだと思えます。また御列席の御父母、御家族、御友人の皆様に対し、心からお祝い申し上げます。桜満開のこのよき日に、才気あ

1期生が入学して以来、時と共に着実に成長を続け、現在では、3学部11学科及び3研究科修士課程8専攻・博士後期課程3専攻に在生人数約1万人を有する、我が国は勿論、世界的に見ても非常に大きな規模の大学になっています。

彼らの理想は、高度な科学技術者を養成し、日本をはじめアジアの諸国を豊かにするというものでした。この理想は、創立時から綿々と受け継がれ、今も千葉工業大学に生き続けています。その結果、グローバル化した現代社会において、本学

ふれ前途洋々たる皆さんをお迎え出来たことは、千葉工業大学にとりまして大きな慶びであります。

本学の建学の精神「世界文化に技術で貢献する」と、教育目標の「広く世界に知識を求める好学力を持つ人材の育成」の重要性は益々高まっています。人々が未来への確かな指針を待ち望んでいる現代社会において、本学は人類の未来を切り

千葉工業大学は、昭和17年に旧制大学として創立された歴史ある大学です。戦前は国立以外の大学において工学教育を行うことがなかなか認められなかったこともあり、工学部を設置できた私立大学はごく僅かでした。その中でも大学予科3年は、70年以上前に書かれた本学の設立趣意書に基づいて定められています。これらには、共に「世界」という語が使われています。実は、千葉工業大学は世界を目指して創立され、常に世界を意識して発展してきた大学です。

拓くための創造性を生み出す源になるものと考えられます。今まさに、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材が、全世界で求められています。

本日、この場には、学部生の皆さんと大学院生の皆さんがいらっしゃいます。

・本科3年の教育課程を  
認められたのは、早稲田  
技術力は、欧米先進国の  
昭和初期、日本の工業  
ますが、どちらも、いつ  
も「世界に通用する社会

# 一緒に考えた

さに英知の集団と言えます。専門的な知識や語学力そして研究能力をさらに高めることは勿論のこと、弛まず取り組む実行力やリーダーシップを身につけてください。

さて、今日、皆さんは文明が繁栄を謳歌している時代を生きています。現代社会のような、資本主義文明が繁栄する時代が到来した一番の要因は、科学技術の進歩に外なりません。我々人類は、極めて短期間に科学技術を発展させ社会をつくりかえてきました。現代社会では日常生活や社会の隅々に科学技術が浸

# 術の将来、一

学部生の皆さんには、これからの4年間で、問題を発見する能力、論理的に考え解決する能力、他人と協力するためのコミュニケーション能力や語学力とい

透しており、我々は好むと好まざるに関わらず科学技術からの恩恵を受けています。近年では、最先端の科学技術によって大量の情報や人や物を通してお金が世界中をダイナミックに移動し、もはや国境が取り除かれた全地球的な社会、すなわちグローバル社会が到来しています。

# 科学技術

った、学力と人間力の徹底した習得を目指して頂きたいと思ひます。4年間はあつという間に過ぎてしまいます。不要な誘惑に負けず、将来のために主体的に自分を鍛えてください。同時に、

科学技術の進歩が人類に恩恵や利便性を与えているのは確かですが、負の問題を生んでいることも事実です。例えば、我々が直ちに解決しなければならぬ深刻な問題にエネルギーと環境の問題があります。科学技術の進歩は加速度的で、我々は地球の有限な資源を急速に消費しています。地

に例えると、産業革命以降、時間は1・7秒しか経っていないことになりました。我々はこの極めて短い期間に有限な化石燃料を大量に消費し、環境破壊や地球温暖化等の問題をつくり出しました。さらに、感染症、食糧、格差問題などの全地球的な課題が顕在化しています。

「我々は既に科学技術文明の行末に對して、責任を負わねばならない立場にある。走りながら考えねばならないのも正しいことだと思える。しかし、未知の影響を止まて考えることが必要になるかもしれない。科学技術の再点検が、今必要であると思われる。」

本間先生がこの言葉を

これからは、資源の再利用や省エネルギー、新エネルギー技術の開発を進め、地球を持続可能にすることに全人類が協調・連携して取り組まなければなりません。私達も、国家や地域の問題と共に、地球全体に関わる問題の解決のための仕事に既に長年取り組んでいます。

ですが、とても私達の世代だけで解決できる問題ではありません。時代は常に新しい知性を必要としています。これらの課題を乗り越え新たな未来を切り拓いていけるかどうかは、若い皆さんの力にかかっています。皆さんは、今はそのために力をつけなければなりません。千葉工業大学は、全力で力を身につける手助けをします。

本日、千葉工業大学に入学された皆さんが、充実した大学生活を送られることを願っています。是非これからの学生生活において、自己の可能性を最大限に引き出し、新しい課題に果敢にチャレンジされることを心から期待して私の式辞と致します。

千葉工業大学御入学、おめでとうございます。

千葉工業大学の卒業  
生、即ち皆さんの先輩  
に、本間禎一先生がいら  
す。

千葉工業大学  
学長 小宮 一仁

平成26年4月1日

建築都市環境学科

## 身近なデザインに関心

# 介護のロボットに興味

独自アプリを作りたい

障がい児助ける仕事を

家族そろって野球が好きで、高校時代は野球部のマネージャーでした。部員23人の面倒をみるうちに人見知りが少し直ったかな。今度は自分がプレーするのがいいですね。勉強して、障がいのある子どもを助けられる仕事がいいです。

ガンダムから現場で働く工業ロボットまで、とにかくあこがれます。自分でロボットを作る、それが夢。福島第一原発で作業する千葉工大のロボットは現場に投入当初から注目していました。いろいろなことを学び大学院にも、と思います。

公共のために尽くす消防士の父を尊敬しています。僕は絵を描くのが好きで、建物の耐震性などに関心があるので、二級建築士の資格を取り、建築の分野で公務員になりたい。勉強だけでなく、何かサクルに入って活動するつもりです。

小学校から野球を続け、ずっと短髪。五厘刈りだったこともあります。だからヘアスタイルにはちょっとこだわりのあるし、身近にある物のデザインに目が行くようになりました。10年後、信頼される人間になっているように頑張ります。

新しくできた寮に入寮できなくて残念。自炊生活になり、母のキーマカレーを教わってきました。津田沼は富山よりちょっと都会ですが、気後れせずすみそうです。人を介護するロボットに興味があり、授業を楽しみにしています。

高校の文化祭で「進撃の巨人」をもじったクラスのPR動画を作ったら好評でした。独学ですがITが大好き。スマホは持っていないけどアプリを作りたいので、貸与されるiPadが楽しみ。誰にもできないことをしたいと思っています。

## 瀬戸熊修理 理事長

## 祝辞



塾大学理工学部の前身である藤原工業大学の2校ではなく、本学は日本で3番目の工業大学として誕生しました。つまり現存する私立の工業大学としては、本学は日本で一番古い歴史をもっています。

皆さん、入学おめでとう。諸君をこの千葉工業大学に迎えられたことを、教職員として在学生とともに心から喜んでいきます。併せてご列席の父母・ご家族の皆様にお祝いとお慶びを申し上げます。

さて、明日から皆さんの勉学の場となる新習志野校舎の図書館には、漢字の「夢」という字が、大書された五丁四方のタペストリーが掛っています。本学の前身である興亜工業大学の創立に尽力された小原芳先生が書かれたものですが、よく見ると、片仮名の「タ」のような「タ」という部分が二画多いんです。ちょっと自分の手の平に「夢」という漢字を書いてみて下さい。そして「タ」の部分の中の棒を一本ではなく二本書く、これが小原先生の「夢」の字です。そこには「他の人より一つでも多くの夢を持ってほしい」という小原先生の若者にかけた願いが込められております。

「夢」と言えば、私は幕末の思想家の吉田松陰

が遺したこの言葉を座右の銘にしています。夢無き者に理想なし、理想無き者に計画なし、実行無き者に成功なし、故に夢無き者に成功なし。

どうか皆さんも大きな夢をたくさん持って、今日からの千葉工業大学での研鑽に励んでほしいと願っております。

いま申しましたように、千葉工業大学は玉川学園の創立者である小原芳先生などの尽力で、昭和17年5月に創立されました。人間で言えば来月で満72歳です。創立の時の「興亜工業大学」という校名は「アジアの工学教育の向上に資する」という意味で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神はここに発しています。

創立されたのは、日本の学校制度が今のようないろいろな六・三・三・四制になる前の旧制のころで、新しく大学をつくるには非常に厳しい条件が付けられる時代でありました。とりわけ工業大学を名乗るところは、国立の東京工業大学と、現在の慶応義

ます。それを回避するのはなく、積極的に向かい合い解決することにより、自立性や複眼的思考が養われ、社会の要請に応えられる人材に成長することを期待しています。

ところで、皆さんの中にはこの3月10日の新聞やテレビで、6550万年前に起きた恐竜など生物の大量絶滅の原因を、千葉工業大学の惑星探査研究チームが中心となつて解明し、イギリスの科学誌ネイチャー・ジオサイエンスに発表し、マスコミに報道されて世界的な反響を呼んでいるニュースを、ご覧になった人も多いかと思ひます。

世界が驚くこの研究を発表したのは、アストロバイオロジーという最新の学問の世界的な権威である松井孝典先生が所長を務めている本学の惑星探査研究センターの研究員です。惑星探査研究センターは、火星や、宇

# 建学の精神を体し大きな夢 持って

宙での生命の存在や進化に関わる問題を解明しようという壮大な研究を進めているほか、日本やアメリカの宇宙開発にも深く関係しております。もう一つ、本学には未来ロボット技術研究セン



寮生らによる校歌斉唱＝入学式で



入学式後に各学科で行われたガイダンス

ターという、世界をリードする研究所がありまうという大きな研究を進めているほか、日本やアメリカの宇宙開発にも深く関係しております。もう一つ、本学には未来ロボット技術研究セン

ターという、世界をリードする研究所がありまうという大きな研究を進めているほか、日本やアメリカの宇宙開発にも深く関係しております。もう一つ、本学には未来ロボット技術研究セン

ターという、世界をリードする研究所がありまうという大きな研究を進めているほか、日本やアメリカの宇宙開発にも深く関係しております。もう一つ、本学には未来ロボット技術研究セン

ターという、世界をリードする研究所がありまうという大きな研究を進めているほか、日本やアメリカの宇宙開発にも深く関係しております。もう一つ、本学には未来ロボット技術研究セン

## 宇宙飛行士 山崎直子さんが講演



入学式会場の幕張メッセ・イベントホールで式後、宇宙飛行士の山崎直子さんが講師として登場し写真。サブライズな展開に新入生や父母から歓声が上がった。

山崎さんは千葉県松戸市出身で、「ロケットガール&ボーイ養成講座」のロケット打ち上げ（3月・伊豆大島Ⅱ5面参照）に参加するなど本学と縁が深い。「宇宙・人・夢をつなぐ」と題し、自身の歩みを重ねながら変化に応じて成長する大切さを語った。

## 「変化にこころよく成長する大切さ」

山崎さんは、絵柄のない真っ白なシグソープズルに取り組みたり、鏡に映る図形を手元でなぞるといった宇宙飛行士試験の問題を紹介。「新しいタスクに出合った時は誰でも驚き、緊張する。完成できなくても、自分の知識をフルに活用し工

「変化にこころよく成長する大切さ」

## 平成25年度 学生表彰者

| 種 類         | 氏 名   | 学 科 |
|-------------|-------|-----|
| 学 長 賞       | 岩淵 大樹 | 電情  |
|             | 大津 舞菜 | 生環  |
| 優 秀 賞       | 大貫 巧真 | 機サ  |
|             | 小野 隼汰 | 建都  |
|             | 荒井 康介 | デザ  |
|             | 松本 尚子 | ロボ  |
|             | 鈴木 宏明 | 情報  |
|             | 篠田 幸宏 | 情ネ  |
|             | 木村 吉宏 | 経情  |
|             | 友水 翔太 | PM  |
|             | 富林ありさ | 金融  |
|             | 西野 雄紀 | 機サ  |
| 同 窓 会 会 長 賞 | 小林 卓也 | 機サ  |
|             | 岡部 宏紀 | 電情  |
|             | 三浦 颯太 | 生環  |
|             | 東峰 智史 | 建都  |
|             | 里瀬 佑  | デザ  |
|             | 西 悠介  | ロボ  |
|             | 井郷 貴史 | 情報  |
|             | 遠藤 咲希 | 情ネ  |
|             | 高橋 孝治 | 経情  |
|             | 森田 洋介 | PM  |
| P P A 会 長 賞 | 猿田 貴之 | PM  |
|             | 布川 淳  | 金融  |
|             | 濱田健太郎 | 金融  |
|             | 佐藤 滉太 | ロボ  |

千葉県私立大学短期大学協会の依頼による「平成25年度私立大学短期大学協会会長賞」

優秀賞候補者より選考 篠田 幸宏 情ネ

## 2038人 晴れて卒業

## 平成25年度 学位記授与式



学生表彰の受賞者たち。瀬戸熊修理事長（前列中央左）、小宮一仁学長（同右）とともに



同窓会会長賞の受賞者たち。前列中央左が坂本洋同窓会会長

## 充実の学生生活 26人を表彰

平成25年度学位記授与式が3月22日（土）、幕張メッセ・イベントホールで行われた。  
晴れの門出を迎えたのは学士1820人、修士213人、博士5人の計2038人。  
午後2時から、小宮一仁学長によって3学部11

例年どおり学生表彰も行われ、学業人格に優れた卒業生26人が表彰された。  
今年度も理事長賞の該当者はなく、学長賞に岩淵大樹君（電気電子情報工学科）、大津舞菜さん（生命環境科学科）の2人が選ばれた。今年度はこのほか、「平成25年度私立大学短期大学協会

学長賞」を優秀賞受賞者から選考し、篠田幸宏君（情報ネットワーク学科）が選ばれ表彰された。  
このあと、小宮学長から式辞、瀬戸熊修理事長から励ましを込めた祝辞が贈られた。在学生代表や、かけがえのない友人たちと夢に向かって努力し続けてきた思いを、涙ながらに述べ、会場にひときわ温かい拍手がわいた。



振袖姿をカメラに



先輩を手荒く(?) 胴上げ

式後、イベントホール前には、先輩たちを見送ろうと多くの後輩が集まり、胴上げや乾杯をして卒業生を祝福した。卒業生たちは卒業アルバムを広げ、キ

ヤンパスの日々を懐かしんだり、恩師を囲んで記念撮影するなど、思い思いに別れを惜しんだ。



学長賞

岩淵 大樹君

とにかくびっくりました。学業に限らず、いろいろなことを学び、毎日コツコツとやってきた結果が評価されたのだと素直に喜んでいきます。大学院に行っても、この賞に恥じないよう日々努力したいと思います。



学長賞

大津 舞菜さん

先生、先輩に恵まれ、研究室で好きなことが出来る4年間でした。研究生活が有意義に送れたのも、環境に恵まれたおかげと感謝しています。これから自分の姿勢を崩さず、研究に励んでいきたいと思っています。

## 同窓会



20年前新習志野校舎で同窓会総会が開催され、そのアトラクションで福岡県支部の先輩が小倉祇園太鼓の素晴らしい演奏を披露してくださいました。それに触発され地域の子供達を集めて九十九里黒潮太鼓を結成しました。本学のよさこいソーラン「風神」と大学祭で

共演したり、各地のイベントへの参加と活動しています。  
結成当時「太鼓無し」「練習場所無し」の無い無い無し。「発表する場も無い」中、如何にモチベーションを維持するか苦慮していました。地元九十九里町は元旦の初日の出は大賑わいでした。そこに太鼓を持ち出して演奏したのですが、寒くてお客もまばらでした。翌年は工夫をして、暖を取りながら名物イワシの

団子汁を振る舞い見物客を呼び寄せました。活動が少しずつ広がりましたが、米60俵の大鏡餅の製作へとながってあります。  
同窓会でのちょっとした出会いが、こうして時が経つといういろいろと発展するものです。  
4月に成田山新勝寺境内で行なわれる「成田太鼓祭」にも毎年出演しています。見に来て下さい。  
図書館事務室  
小倉 幸子

## 四季雑感



春の訪れを何で感じるかは人それぞれですが、4月1日は様々な事柄のスタートであり特別な日であることには違いないと思います。私は入学式で緊張の面持ちの新入生を遠目で見ると、今年もこの時期がやってきたことを改めて実感します。幕張メッセから新習志

野キャンパスに移動する折、さくら広場の前を通りました。505本あるというその桜が織りなす光景は見事ですが、一本一本の木を観ると、まだまだ華奢な印象を受けます。これから年を重ねるごとに、その幹や枝を成長させ、一本の木も更に見事なものになっていくでしょう。  
道を挟んで広場の向かい側には、学生寮（桑達寮、椿寮）を見上げることが出来ます。真新しい

学生寮は、居住設備はもちろん、防災対策やセキュリティも万全のこと。寮生達はこれからの生活に、不安なく望めることと思います。  
今年新生活をスタートさせたばかりの寮生も、数年後のこの時期には一人ひとりの社会に羽ばたいて行きます。  
彼彼女らの成長も、桜と重ねながら楽しみにしていきたいと思います。  
デザイン科学科  
中本 和宏

## 編集だより



毎年のことであるが、入学式が近付くと雨や風に敏感になる。当日、満開の「桜」で新入生やご父母のみなさんを迎えられたらと、単純な思いからである。  
当日はまだ堅いつぼみが多く、満開とまではいかなかったものの、うっ

すらピンク色のつぼみは緊張のなかスタートする新入生のようにも見え、この先、新習志野キャンパスを彩る希望を感じられた。  
桜といえば、新習志野キャンパスに隣接するソメイヨシノ約500本を誇る桜一色の公園「さくら広場」をご存じだろうか？ 今年こそは花見を！と思っていたものの、時期をすっかり逃してしまっ。風はまだ冷

たいものの、これからの時期は外で過ごすにはちょうどいい。花見にこだわらず、心地よい木陰ができる木の下で、安らぎや、みずみずしさ、心地よい風を感じてみよう！  
新しい出会いや、出来事は一歩踏み出すことで生まれるはず。これから4年間、恐れることなく笑顔でキャンパスライフを駆け抜けてほしい。  
入試広報課  
大橋 慶子